

(テーマ) 税金から未来の「まちづくり」を考える

三川町立東郷小学校教諭 6学年 佐々木 嘉彦

実施年月日：令和3年5月25日～31日 18名

1 実践計画・指導のねらい

そもそも税金とは何か、なぜ税金が必要なのか、税金にはどんな種類があるのか、身近なところではどのように税金が使われているのか、町でも税金を扱っているのか…。こうした子どもたちの問いを基にして、単元学習計画を作成した。税金という言葉を知っていても、身近なものとして捉えている児童は少なく、中には損得で考えている児童もいた。授業をする中で、税金についての知識やその使われ方に関する理解を深められるように話し合う場面を多く取った。国民の三大義務の一つである「納税」。学習後も、納税者の一人として生きることの大切さを実感できるようなものにした。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、子どもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	・税金とは何か。また、税金の必要性について考える。 	○ <u>税金は、世の中に必要なものなのだろうか。</u> ● 税金がないと、世の中が大変なことになる。 ● 大人は、いろいろな税金を払っている。 ● 税金があることで町の建物を造ったり、無償で教科書をもったりできる。 □使用教材名 副教材「わたしたちの暮らしと税金」
2	・住民の要望を実現するために税金が使われていること、税金にも種類があることを知る。	○ <u>税金には、どのようなものがあるのだろうか。</u> ● 消費税。買い物をする時に払っている。 ● 所得税。住民税。入湯税。酒税。 ● 住民の要望や暮らしの中で必要なものには、税金が使われる。 □使用教材名 副教材「わたしたちの暮らしと税金」 国税庁HP
3	・身近な税金である「消費税」について話し合い、自分の考えをまとめる。 	○ <u>「消費税の税率は、引き上げるべきか否か」</u> ● 日本の未来のために使うのだから、引き上げるべき。 ● 人口が減少しているから、税金も減るので引き上げた方がいい。 ● 幸せに暮らすためには、税率を引き上げることも必要。 ● 生活が苦しい人にとっては大変さが増すので、税率は引き上げない方がいいと思う □使用教材名 副教材「わたしたちの暮らしと税金」
4	・町の税金の歳入、歳出について理解し、今後の生活や「まちづくり」について考える。	○ <u>三川町はどのような「まちづくり」を目指しているのか。</u> ● 国から交付される地方交付税が歳入の約3割を占めている。 ● 民生費や教育費が多いので、福祉や教育に力を入れている。 ● 学校生活の中でも、たくさん税金が使われている。 ● テオトル（子育て交流施設）を建設したことから、子育てや地域交流を大切にしていることが分かる。 □使用教材名 三川町広報 No. 770（2021.4月号）

【指導のポイント】＜1時間目＞

税金がいかに大切なものであるか、税金がない世界を例にして考えを深めることができた。

【指導のポイント】＜2時間目＞

税金の種類や使われ方についての話し合いを通して、税金は直接税と間接税に分けられることや住民のために使われるものだということに気付くことができた。

【指導のポイント】＜3時間目＞

外国の消費税の税率と比較しながら、考えることができるようにした。現在だけでなく、将来にわたって大切なものだと気付くことができた。

【指導のポイント】＜4時間目＞

町の広報誌を資料として扱い、身近な所で税金がどのように使われているのか「まちづくり」とつなげて考えることができた（総合的な学習の時間のテーマ）。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）

- ◎ 身近な題材を扱うことで、税金が私たちの暮らしに密接に関わっていることや、なくてはならないものであることを理解することができた。
- ◎ 資料（自治体の予算案が掲載されている町広報）を通して、税金が「まちづくり」に直結するものであること、住民の願いに寄り添い、実現するためのものであることを学ぶことができた。
- ◎ 予め、豊富な資料を送付していただき、授業づくりの面でも、児童が授業で考える上でも参考になった。
- ◆ 租税教室や外部の方々に話を聞くなど、「ホンモノ」にふれるような学習を計画することで、より学びが深まるのではないかと考えた。